

発行人 福島県教職員組合
発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141
〔定価一部 20円〕
編集・責任者 角田 政 志
e-mail : ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp
http://www.f-t-u.or.jp
(この購読料は組合費に含まれています。)

青年教育労働者の 学習交流を深める!

～「第39回日教組東北ブロック青年教育労働者研究集会」 福島大会、盛大に開催される!～

■ 8月20日(土)～21日(日)

■ 磐梯高原リゾートインぼなり



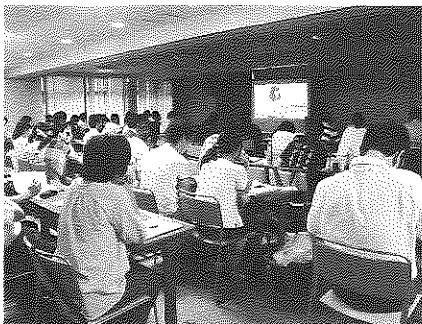
現地実行委員長の
吉田純一さん

本集会に、福島県から38人の参加を含め、計84人の参加がありました。家族で参加する仲間もいるなど熱気にあふれた集会となりました。また、当日に組合へ加入した参加者があり、みんなで歓迎する温かい集会となりました。

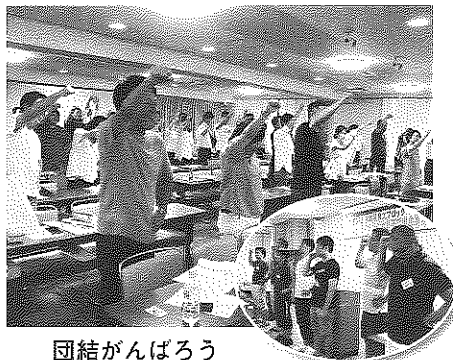
1日目は、開会行事で吉田純一さん(郡山支部青年副部長)から基調報告があり、その中で参加者に「青年教職員の理想の働き方」についての問いかけがあり、「大きな夢と希望をもって現場に入ったばかりの、あの頃を」という提起がありました。また、青年教職員の現状や震災・原発事故から5年経った今の状況についても報告がなされました。続く講演では、元高校生平和大使だった青年のインタビュービデオを視聴し、また、「福島のと教育現場」と題して日野彰さん(双葉支部書記長)から原

発事故当時のことや今の福島県の状況など、具体的な事例を挙げながら報告がなされました。分散会では、「私たちの職場では、今、何が問題であるか」「どんな職場にしていきたいか」「私たちにできることは何か」など、自由な雰囲気の中で意見を交流することができました。

2日目は、「組織拡大」「賃金・権利」「職場・学校づくり」「教育諸問題」「平和・人権」の5つの分科会に分かれて、テーマごとに現状と課題、そして要求実現のための見通しについて話し合いました。青年教職員が一堂に会することの大切さを実感することができ、参加者全員が元気の出る集会でした。来年は、山形で東北ブロックの青年教育労働者研究集会が行われる予定です。福島県からも多くの青年教職員の参加を募り、今年と同様、成功させましょう。



インタビュービデオの視聴



団結がんばろう



現地実行委員会 お疲れさまでした。

女性部 全国集会・学習会に参加!

○全国母と女性教職員の会 (8月1日～2日)

夏休み中は、全国集会・学習会が開催されました。全国母女には、福島県から教職員・保護者あわせて16人が参加しました。1日目は、作家・中沢けいさんの講演「生活と社会と政治～わたしの経験」とエッセイストの朴慶南さんの公演「詩と絵本の世界から」が行われ、2日目は15の分科会に分かれて討議を深めました。「健康の問題」分科会では、横田美奈子県養護教員部長から震災6年目の福島の状況についての提起がありました。



中沢けいさんによる講演



分科会での様子

～参加者の声～

女性部運動の中心に母女がありました。お母さん方と手をつなぎ、子どもたちにとってのより良い教育・社会をどう求めていくかを考えさせてくれました。「私たちは微力でも無力ではない。」と、つながることの大切さを実感しました。

○日教組両性の自立と平等をめざす教育研究会 (8月3日～4日)

1日目は、水無田気流さん(國學院大学)の講演とシンポジウム「わたしたちの働き方改革」があり、働き方・暮らし方の見直しなどについて触れられました。2日目は4つの分科会に分かれ、充実した学習がなされました。以下は参加者からの感想の一部です。



女性も男性も生きづらさを感じながら生活している。国の施策でつくられた男女の働き方の違いに原因があるのではないかと感じ、性別役割分担を越えた働き方が必要だと思いました。

シンポジウムでは、教員・学識者・学生のそれぞれの立場からの意見があり、「今の若者が希望を持ってないと言えないよう、理想を語れるように。」との言葉が印象に残りました。

教職員共済といえやっぱり!

総合共済

まさかの賠償事故にも備えられます



教職員賠償責任補償
業務中に発生した賠償責任を
最高3,000万円まで補償



個人賠償責任補償
日常生活で発生した賠償責任を
最高3,000万円まで補償



しかも!
掛捨てでは
ありません

月掛金 **900円** で **12** の保障(補償)

厚生労働省認可
教職員共済生活協同組合 福島県事業所
TEL:024-523-3011

ホームページからも
資料請求いただけます

教職員共済 検索
<http://www.kyousyokuin.or.jp/>

モバイルサイトはこちらから!



あんしん むすぶ
教職員共済

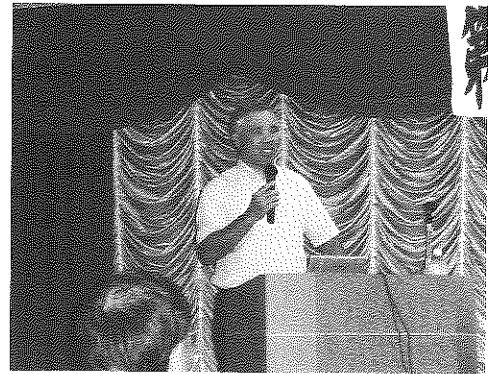
県教組から現状を報告！

第31回東北ブロックカリキュラム編成講座

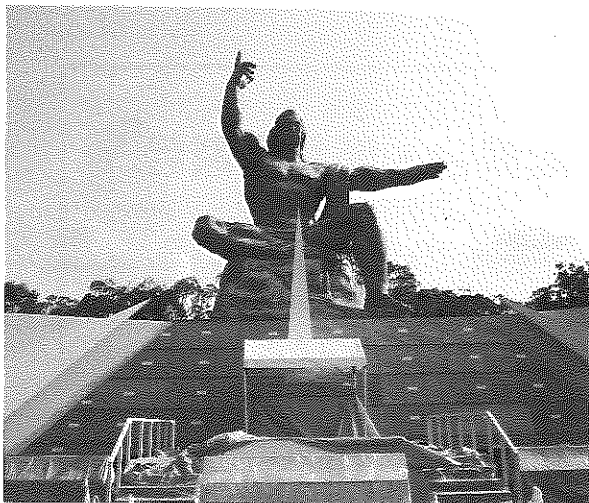
8月27～28日、第31回東北ブロックカリキュラム講座が青森県の五所川原市の立佞武多の館（たちねぶたのやかた）等で開催されました。県教組からはリポーター・司会者を含めて10名が参加し、各分科会での学習を深めました。

リポートは、南会支部の古川晃さんが「中学校の教育課程」分科会で「誰のための学校か」、本部の瓶子高裕さんが「中学・高校の接続を考える」分科会で「福島県高校入試制度の現状と問題点（ふたば未来学園の現状と課題を含む）」というタイトルで報告・問題提起を行い、積極的に討論に参加しました。

記念講演は、前神奈川県立由奈高等学校長の中野和己さんが「社会的自立に困難を抱えた生徒の支援～学校を支援のプラットフォームとして機能させる～」という演題で講演し、生徒を学校へ引き戻す実践を聞き、たいへん参考になりました。この講座で学んだことを今後の教育活動に生かしていきたいと思ひます。



講師の中野和己さん



平和への願いを新たに！

原水爆禁止世界大会（8月4～9日）

8月4～9日、原水爆禁止世界大会・広島大会と長崎大会が開催され、県教組から9名が参加し、全体会、分科会において福島の実況と課題を訴えました。また、それぞれが課題をもってフィールドワークに積極的に参加しました。改めて核兵器の恐ろしさを知り、核兵器廃絶へ向けて運動していくことの必要性を強く感じました。

第66次県教研 案内

■と き 2016年10月15日(土) ■主 催 福島県教職員組合・福島県立高等学校教職員組合
 ■と ころ 相馬市立中村第二小学校 福島大学教職員組合・福島県私立学校教職員組合連合
 (相馬市尾浜字細田1)

■日 程

9 : 30 10 : 00 10 : 30 12 : 00 13 : 00 14 : 40 14 : 50 16 : 30 17 : 00

10/15 (土)	受付	開会行事	記念講演 (90)	昼食 分科会運営 委員会	教科別分科会 (100)	移動	課題別 分科会 (100)	事後 処理 委員会
--------------	----	------	--------------	--------------------	-----------------	----	---------------------	-----------------

■記念講演

「学校における憲法教育・人権教育はどうあるべきか ～これからの道徳教育のあり方～」(仮題)

講師/齋藤 一久 さん(東京学芸大学准教授)

「フッ素洗口」についての 総決起集会・学習会

現在、福島県は平成28年度から「子どものむし歯緊急対策事業」と称し「4歳児から学齢期までのフッ素洗口を実施する。平成30年度までに実施率100%を目指す。」としています。

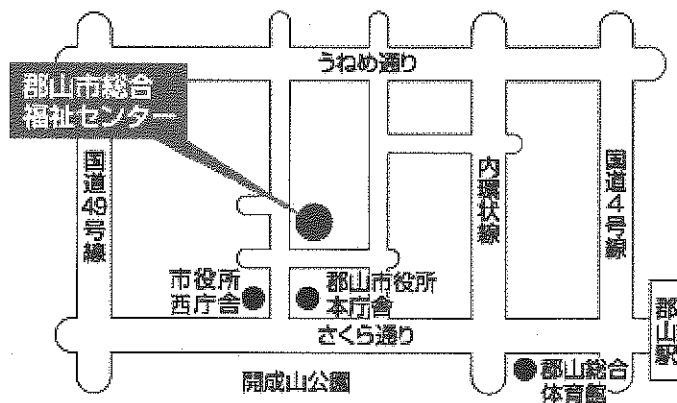
県教組としては養護教員部を中心に「フッ素洗口についての学習会」等を行い、「『フッ素洗口』は学校で行うことではないし、強制されるものでもない」と確認してきました。全国的に見ても「虫歯が多い・少ない」には関係なく学校現場での『フッ素洗口』が進められようとしているのが現状です。

そこで緊急に「『フッ素洗口』についての総決起集会・学習会」を下記の通り行うことにしました。この問題は、県教組だけではなく多くの方の理解と協力が必要です。

是非、地域・保護者の方にも声をかけてご参加いただき、『フッ素洗口が学校現場で必要かどうか』を考えていきたいと思えます。多くのご参加をよろしくお願ひします。

「フッ素洗口」についての総決起集会・緊急学習会

- ① 日 時 **9月24日(土)** 13:00～ 受付(昼食なし)
13:30～15:30 講演、他
- ② 場 所 「郡山市総合福祉センター」5階集会室(郡山市役所北側)
郡山市朝日一丁目29-9 TEL 024(924)2950
- ③ 講 演 「『フッ素洗口』の課題と今後の取り組み」(仮)
講 師 高山みつる 様(元山形県教組養護教員部部長)
- ④ 事務局(連絡先) 福島県教組 024(522)6141



■会 場

郡山市総合福祉センター 集会室
【郡山市役所本庁舎北側】

▼バス利用

路線バスをご利用の場合は、市役所前または福祉センター前が便利です。

※郡山市総合福祉センターの駐車場には限りがございますので、郡山市役所(市役所前・北側)もしくは開成山公園の駐車場の利用が便利です(無料)。